九州産業大学の学生プロジェクトチームが挑む
トリアスでの職業体験イベント企画・運営

TORIUS to BIZ Episode vol.3

2025年3月、九州産業大学の学生プロジェクトチームが企画・運営した子ども向けの職業体験イベントが開催されました。
福岡市東区の九州産業大学 商学部 経営・流通学科では、「事業開発論」という授業の一環で、トリアスを題材に“デザイン志向の考え方”を活用して「トリアス活性化のためのアイデアを提案する」をテーマに様々なことに取り組んできました。
「おしごと体験」はトリアスで年に2回開催され、700件以上の応募がある人気のイベント。今回は「施設の認知向上と魅力発信等」を目的として、内容の考案、準備、告知、当日の運営まで学生主体で実施しました。

産学連携の取り組みとしてこの企画に賛同した以下の4店舗と連携。

- **おもちゃのぴーこっく**
- **ヘルシージュース**
- **楽市楽座**
- **GAP OUTLET**

各店舗と学生たちが打ち合わせを重ね、子どもたちが楽しく学べる体験内容を一緒に作り上げました。

SNSでの発信にも挑戦

学生たちは、イベントの告知や当日の様子を伝える動画を自分たちで制作し、Instagramを活用して情報を発信。学生ならではの感性を活かした動画は、視覚的にトリアスの魅力を伝えるだけでなく、SNSを通じて幅広い層の人たちにイベントの楽しさや雰囲気を届けることができました。
動画の企画・撮影・編集までを学生自身が担当し、「どうすれば興味を持ってもらえるか」「見た人が参加したいと思ってもらうためには?」といった視点を大切にしながら工夫を凝らしました。この取り組みは、情報発信力やマーケティング的な視点を育てる機会にもなりました。

おもちゃのぴーこっく
再生数5117回

ヘルシージュース
再生数4208回

楽市楽座
再生数4820回

GAP OUTLET
再生数4011回

※各再生回数は2025.4.22時点

子どもたちが“お店のスタッフ”としてお店の魅力を体感!

■ おもちゃのぴーこっく

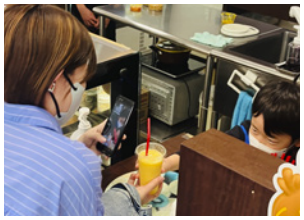
店内から自分の好きなおもちゃを選び、スタッフのレクチャーを受けながらギフトラッピングを体験。ギフトバッグを“シャツの襟”のように折りたたむラッピングは少し難しそうでしたが、学生たちのサポートもあり、かわいらしく仕上げることができました。

好きな商品の販促用POP作りにも挑戦。子どもたちは自分の言葉で商品の魅力を考え、思い思いのデザインを完成させました。完成したPOPは、なんと実際に店頭の商品に貼られることに。自分の作ったPOPで商品が売れるかも?というワクワク感を味わえたのではないでしょうか。

■ ヘルシージュース

オレンジ・パインなどのフルーツを使ったジュース作りに挑戦した子どもたち。丁寧に材料をミキサーに入れ、説明を受けながらジュースが出来上がる様子を真剣に見つめていました。出来上がったジュースは“お客さん役”の保護者に手渡し。「ありがとう」の言葉に照れながらも満足そうな表情でした。

体験の最後には、ぬりえシートに自分で作ったジュースの色を塗り、感想を書きました。何色も重ねながら、忠実にジュースの色を再現して出来上がった作品は、店内に展示され、多くの人に見てもらえる貴重な経験となりました。



■ 楽市楽座

巨大UFOキャッチャーに景品を補充する作業を体験しました。大きな景品を両手に抱ながら順番にUFOキャッチャーの中に入り、楽しそうに景品を並べている姿が印象的でした。

その後は、学生考案の「楽市クエスト」に挑戦。店内のお仕事を探していく、という企画で、普段は見られないゲームセンターの裏の仕事に、子どもたちも興味津々の様子。スタッフや学生の力を借りながら、ひとつひとつクリアしていきました。

■ GAP OUTLET

まずは、洋服の陳列に挑戦した子どもたち。スタッフに洋服の畳み方を教えてもらいながら、サイズやカラーごとに分けながら、丁寧に畳んでいました。

次は、自分で考えたテーマに沿ってコーディネートを考える体験をしました。完成したコーディネートは、店内からイメージに近い洋服を選び、実際にマネキンに着せてみることに。

スタッフのサポートを受けながら、自分のコーディネートを形にしていく作業に、達成感を感じている様子の子どもたちでした。

SNSでの動画発信の効果もあり、過去最多の900件超の応募が集まった今回のイベント。子どもたちの笑顔があふれる中、企画・運営から当日のサポートまでを担った学生たちに話を聞きました。

ー「おしごと体験イベント」を企画として選んだ理由を聞かせてください。

働くことの経験として、大学生がサポートしながら楽しんでもらえる企画は何かと考えた末、子ども一日店長体験に至りました。将来の夢や進路に悩む子どもたちに、さまざまな仕事を実際に体験する機会を通じて、自分の興味や得意なことに気づいてもらいたいと思い、お仕事体験イベントを企画しました。

ー内容を考える中で、難しかったことや工夫した点は何ですか。また、SNS向けの動画制作で、特に意識した点を教えてください。

イベントを考えるとき、子どもが楽しく、保護者が安心できるバランスを大切にしました。子どもがワクワクする内容で、保護者にとって安全で意味のあるものにしたかったので、企画を考えるのは少し大変でした。実際の仕事をシンプルにして、子どもが達成感を感じられるように工夫しました。トリアスで働く方々と一緒に、現場の道具や服を使って本格的な体験ができるようにしました。単なる作業ではなく、「お仕事をやり遂げた!」というストーリー性を持たせることで、子どもの集中力や達成感を引き出しました。SNSでは、すぐスクロールされてしまうので、最初の数秒でパッと目を引く画像や言葉を入れるようにしました。楽しそうな雰囲気や笑顔を載せると、

イベントの魅力が伝わりやすく、みんなの興味を引くことができます。InstagramやTikTokでの閲覧が多いので、スマートフォンで観やすい動画を作りました。

ー実際にイベントを運営してみて、印象に残った出来事や嬉しかったことはありますか。

子ども向けのお仕事体験イベントを運営した中で、特に印象に残ったのは、イベント後に子どもたちが「ありがとう、お姉さん!」と満面の笑顔で声をかけてくれた瞬間です。その純粋な笑顔と感謝の言葉に、心から感動しました。また、協力してくださった店舗の方々から「子どもたちの楽しそうな姿が見られて、本当に素晴らしい企画だったね」とお褒めの言葉をいただいたことも、とても嬉しかったです。さらに、保護者の方々が子どもたちの体験している様子を写真や動画に収め、楽しそうに思い出を残している姿を見ると、このイベントが子どもたちやご家族にとって特別な思い出になったんだなと感じ、大きな喜びを感じました。

ー今回のプロジェクトで得た経験を、今後どのように活かしたいですか。

デザイン思考を活用した企画から実行、情報発信までの経験は、問題解決力やチームワークを磨きました。この実践で得た力を、社会人としては課題を多角的に分析して様々なアイデアを提案する力に活かします。日常生活でも、柔軟な発想で日々の課題に取り組み、積極的に行動します。

今回の取り組みで、学生たちはデザイン思考のプロセスを活用しながら、企画の立案から実行、さらに情報発信に至るまでの一連の流れを自ら行いました。こうした実践的な経験を通じて、今後も新たなアイデアを生み出し、地域社会とのつながりをさらに深めていくことが期待されます。